

# 仲間と共に新しい価値を創り出そうとする体育学習の在り方

菅原純也\*\*, 清水茂幸・清水将\*, 根木地淳・松村毅\*\*, 加賀智子・高橋走\*\*\*

\*岩手大学教育学部保健体育科 \*\*岩手大学教育学部附属小学校

\*\*\*岩手大学教育学部附属中学校

(平成28年3月2日受理)

## 1. はじめに

社会では、新規産業の未創出等の経済問題や東日本大震災を契機としたエネルギー問題など、今までにない課題が山積している。このような課題には今までの解(価値・知識)が通用せず、新しい価値を創り出す人材が必要である。そのためには個人の資質や能力(汎用的スキル)を高め、正しい解を覚えるという状況から、自分たちなりの価値を創り出すという大きなパラダイム変換が行われなければならない。

国立政策研究所の報告書5には「単なる経済社会的な変化への受け身の対応ではなく、多様で『自立』した個人が『協働』することにより、新しい価値や社会の変化自体を『創造』することが期待されている。」と記されている。この事は言い換えれば、これからの社会には、協働により価値の創造ができる人材の育成が重要になってくるということである。

このような状況の中、我々体育教師の担うところは大きいと考える。なぜなら、体育は子どもたちの大好きな教科でもあり、唯一「からだ」を中心として学ぶ教科だからである。「知徳体」という言葉で表せる、人間として大切にしたい3つの要素を教科領域として全て網羅しているのは体育だけである。これらのことを踏まえ、我々の担っているところは大きいと考える。

そこで、本プロジェクトでは、社会的なニーズでもある、今までにない課題を協働的に解決できるよう、体育の授業を通して仲間と共に新しい価値を創造し続けていく子どもたちを育成することを目的とする。

また、昨年度も行ったが、その成果を取り入れ

た体育授業を提案することにより、研究の成果を発信し、岩手の体育授業の向上を図ることも目的としている。このプロジェクトは、体育の授業を参観することが少ない先生方や、授業を通した体力向上や授業づくりに悩みがある先生方にとって有益な活動になると考えられる。さらに、授業の構成を提案することで、岩手県内のどこでも同じレベルの体育授業が提供され、子どもたちの体力を向上させていくことも望まれる。具体的な活動は以下の通りである。

## 2. 方法

- ①各地区学習会との連携を図りながら、仲間と共に新しい価値を創り出す体育授業を検討し、実践を重ねていく。
- ②岩手県内の小学校へ出向き、授業研究会を設定する。
- ③岩手体育学習会集会を開催する。(授業研究会や講習会を含む)

これらの活動と並行しながら、このプロジェクトを通して得た成果は、パンフレットとして、各地区の体育学習会を通して広げて行きたいと考えている。

実施内容

- ①岩手大学教育学部附属中学校学校公開研究会
- ②第6回岩手体育学習会集会授業研究会
- ③授業研究会 IN 綾織小
- ④第5回冬の授業研究会
- ⑤体育指導パンフレット作成

その他

校内研究会(附属小)

授業研究会熊本大会視察

年間を通じて各地区での体育学習会の開催（およそ各月1回程度）北上・久慈・九戸・沢内地区など

### 3. 結果

#### （1）体育科が考える新しい価値とは

新しい価値という、今までになかった価値を創り出すと考えるかもしれない。もちろんそのような価値を創り出すことも大切であるが小学校段階の児童には難しいと考える。そこで本研究では、新しい価値について以下の2点でとらえた。

- ①今までになかったこと（動作・コツ・表現等）
- ②先人たちが発見した文化（動作・練習法・コツ等）

①は、児童が自分の想像力を発揮し、創造したものである。②は、スポーツ文化として、先人たちが築いたもので子供にとっては、「あれども見えず」のものである。

#### （2）新しい価値を創り出そうとする手立て

##### ①指導過程の工夫

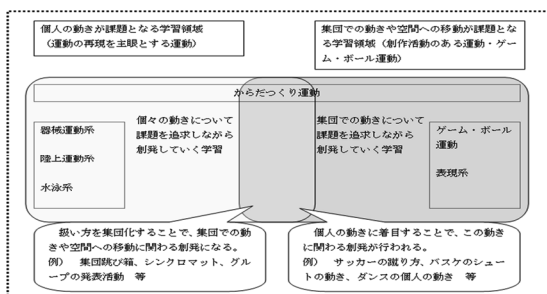
「MTM理論」

試合をして出来なかったことをトレーニングし、その結果を基にしてゲームをする。オーセンティックな課題を見出しやすい。ゲームとリンクしているため意欲の向上を図りやすい。

##### ②学習形態の工夫

「ジグソーメソッド」

協働学習を促すため編み出された方法。それぞれ受け持って学習。それを持ち寄り、紹介するジグソーパズルを解くように全体像を協力して浮かび上がらせる手法。



新しい価値創りと体育科における領域との関連

#### （3）新しい価値を創り出そうとする体育学習の実際

##### ①指導過程の工夫

「MTM理論」

単元名 ボンバーボール（ゲーム）

《めざす子供の姿》

友だちと仲良くかかわり合いながら、投球や捕球、ボールの落下点への移動など、これからのゲームやボール運動に関連する動きを身に付け、ルールや運動のポイントについて考えながら、学習の中で新しい価値を創り出す子供。

##### ○単元の構想

柔らかく、落下速度が遅いため捕球しやすいというボールの特性を生かし、積極的にボールを取ったり投げたりさせる中で、攻防の駆け引きやラリーの楽しさを味わいながら、捕球や投球などの動きを身に付けさせたい。攻防が分離されているゲームの特性を生かし、相手の状況を判断して攻撃する方法を考えること、また、その攻撃を防ぐ方法を中心として学習を進めていく。本時では、困り感やゲームへの思いから、新しいルールを考えることと、新しいルールのもとでの攻撃のポイントを考えることを中心として扱う。

「新しい価値をつくる出そうとする子ども」の実現のために、子供達がルールやコート、運動のポイント、練習方法などを工夫したり考えたりする活動を重視し、子供と共に単元を創っていきたい。

##### ○新しい価値を創り出す子供を育てるための手立て

- ・指導内容・系統性・ゲームの難易度と必要な技能レベルを保障した、低学年段階におけるネット型ゲームに発展する教材の工夫
- ・ルール・コート・単元名・子供への委ね方を工夫し、子供と共に創る体育授業の在り方

## ○本時の展開

・新しいルールの中での攻撃のポイントを見つけている。(思考・判断)

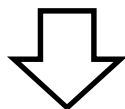
子供が抱えている現在の困り感やゲームに対する思い

- ・相手コートまで、ボールが届かない。
- ・ネットに当たってしまい、得点をとることが出来ない。
- ・自コートの後ろ側で受けてしまうと、相手コートの空いているところをねらって攻撃することができない。
- ・いつも特定の子ばかりがボールを受け、投げ返している。
- ・自コートの攻撃に適したところから、相手コートに投げ返したい。



ゲーム①から考えた新しいルール

- ・ボールを取ったら、パスをする。
- ・パスを受ける人は、次の攻撃をしたいところへ動いてからボールを受け取ることができる。
- ・パスを受ける人がボールを取ることが出来なかったら、相手チームに1点が入る。



新しいルールを生かして考えた  
作戦ポイント

予想されるポイント

- ・相手コートに届かない人は、前の方でパスをもらおうと届きやすくなる。
- ・次に攻めるときに攻めやすいところでパスをもらえばいい。
- ・真ん中の前の辺りが攻めやすいから、そこでパスをもらえばいい。

## ②学習形態の工夫

「ジグソーメソッド」

単元名 「ほし組レストラン」

(A体づくり運動 イ多様な動きをつくる運動)

《めざす子どもの姿》

体のバランスや用具を操作する運動を身に付け、仲間とともに運動の行い方を工夫しながら意欲的に運動しようとする子ども。

## ○単元の構想

本単元では、レストランを場面とし、「技を身に付ける」ことを「技を食べる」ととらえ、たくさんの人に食べてもらえるおいしい(動きの質の高い)メニューを考えるという設定にした。そのことにより、児童の意欲が向上するだけではなく、相手意識をもったり良い動きを考えようとする原動力となったりすると考える。

授業では、以下のようなステップを踏み進めていく。

### 第1ステップ

ベースとなる技を6つの場所に分かれステーション型で取り組ませる。ベース：二人で向かい合い、ボールを投げたりとったりする。

### 第2ステップ

教師が提示した少し難しい技に取り組ませる。2ステップ目として、2人1組でボール2個の動きを教える。ボールを操作する動き。

### 第3ステップ

質の高い動きを「シェフのおすすめメニュー」として考えさせる。2ステップ目の技を基本としながら、「方向・人数・回数・部位」を視点とし、それぞれの4つの視点に分かれたグループ(ジグソーメソッド)でアイデアをうみださせた。考えたアイデアを自分のグループに持ち帰り、「おすすめメニュー」をもとにチームで創り出させたい。

○新しい価値を創り出す子供を育てるための手立て

- ・アイデアを自分のグループに持ち寄り、おすすめのメニューを創発させる。
- ・ベースとなる動きの質を高めるために変化のある3ステップで全体に指導する。
- ・そのアイデアをもとに、選択した視点の仲間と、視点に沿った発展型の技のアイデアを出し合う。

○本時の展開

- ・ボールを操作する運動を工夫して考えている。  
【思考・判断】
- ・決められた行い方ができる。【技能】

○子供の様子

ベースの動き 「二人で向かい合い、ボールを投げたりとったりする」

→ボールの個数を変える（教師の提示）2個のボールを用い、キャッチボール

- ・子供の動き  
片方は空中を、もう片方は、床にバウンド

→さらに、「方向・人数・個数・部位」を視点として、ジグソー学習を行った。

- ・子供の動き  
スローイングとキックとを混ぜる。  
人数を増やし、4角形の対角線でボールをぶつけないようにキャッチボール  
前時に学習した道具の工夫で、フープを的として、その中を通す。

#### 4. 考察

MTM理論では、ゲームから体感したことをもとに、切実感をもった課題を設定しやすいことが分かった。

本実践では、児童の思いに寄り添いながら指導をすすめたが、その際に、無限に考えを肯定するのではなく、ある一定の制限をかけることにより、子供は一步深い学びへとステップアップすること

が分かった。これは、考えのベースが共有しやすいからこそ、思いを具現化する際に、動きやルールを共通の言語として考え合わせることができると考えた。

ジグソーメソッドでは、個人の責任が明らかになるため、自分の考えに思いをもち語る場面が多く見られた。そのことにより、動きの質が高まる場面も多く見られた。

ベースとなる動きを基に、ジグソーメソッドを用いることで、自分たちで考え合わせ新しい価値を創り出すことができた。新しい価値を創り出すには、その運動に取り組みたいという意欲が大切である。ストーリー性をもたせた単元づくりは有効であった。また、創り出すためには、ある程度の制限の中で考えるからこそ、工夫の質が高まると考える。ジグソーメソッドでは、制限の中で、アイデアを出し合い新しいものを創りだしている。自分の班に戻り、責任をもって伝えることで、かかわりや責任感も育てることができる。これらのアイデアを材料に、各グループで考え合わせることは、本研究のテーマと合致しているといえる。

## 5. まとめ

### 成果

○MYM理論は、課題設定しやすく、一定の制限の中で考え合わせることで、新しい価値を創り出すことができる。

○ジグソーメソッドでは、自分の責任が生まれるため、思いを明確にしながら、仲間と関わり価値を創り出すことができる。

### 課題

○領域を絞り、かかわりの在り方を明らかにしていきたい。

### 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた各校の子どもたち、先生方に感謝いたします。

また、日常の議論を通じて多くの知識や示唆を頂いた附属小学校体育科研究部並びに、附属中学校保健体育研究部の皆様に感謝します。